

半纏(はんてん)染色のための 厚地生地テキスタイルプリンターと生地前処理剤の開発

平安時代から伝わる伝統技法を最新機器の使用でもっと身近な存在に



ブランド、トレードマーク、商標。簡単に言えば、企業・団体やサービスを他と区別するための概念、標識を指す。そのマークを見るだけで、あの企業、あの団体、あのサービスであると認識させるものだ。日本でその考え方が確立したのは古く、平安時代だったとも言われている。時の武士たちは自軍と敵軍を識別するために、家紋を入れた幟(のぼり)を使っていた。どうやらこれがその最初らしい。掲げられていた幟、手作業で丁寧に仕上げる「本染め」で美しい紺藍に染められていたに違いない。

開発 動機

伝統というのは触れられて初めて残るもの。歌舞伎や能にしても、観覧する人がいなければ廃れてしまうだろう。染め物も身につける人がいなくなれば然り。また、伝統商品というのは職人の手作業に依るものが多く、決して安価ではない。そこで、染色用厚地生地のテキスタイルプリンターを導入した染物会社がある。水野染工場、創業は明治40年という老舗中の老舗だ。販売部販売課の青木課長に話を伺った。「手染めは時間が必要で費用がかかる上、職人の手彫りだと型を作る費用もいる。故にコストが増えてしまうんです」。もちろん、客のニーズに応えるために本染めを捨てたわけではない。



実施内容

同機は伝統的な本染の染料をそのまま使うことを必須条件にメーカーと共同開発。色を固着させる工程を踏んで、染め物商品として販売できるようカスタマイズした。その上、経験を重ねた本染め職人が機械のオペレーションを行うので、仕上がりに関しては安心できる。機械染めは黒、藍色などの深い色を出すのを得意としていないが「ウチではその色が出せないと商品にはならないので『必ず出してください』とメーカーさんに強くお願いしました」と青木課長。ちなみに、染料に糊を混ぜ、布地に直接模様を染める染色方法を捺染(なっせん)と言い、このテキスタイルプリンターの名前は「ナッセンジャー」と言うそうだ。

事業成果

残念ながらそのナッセンジャー、諸手を挙げて歓迎されたわけではない。実は導入前に社長と激しい意見の相違があったと言う。「本染めでやってるのに何で機械なんだ!」と青木課長は思った。しかし、その決定には意外な効果があったようだ。最初は安いから機械でという注文だったのが、色が…デザインのメリハリが…素材が…という話になり、最終的に本染めの需要も増えたと言う。青木課長は自信を持って「ウチの強みは手染め、機械染め、両方やることですね。どちらの特性も知った上で、お客様のニーズに合った印染商品をお届けすることができますから」と。社長の英断、それは先を見越した挑戦だった。

今後の展望

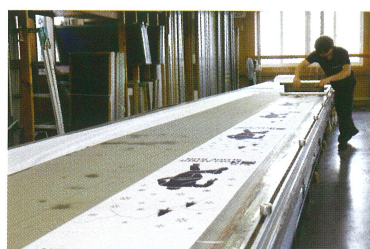
本来の手作業3人分を機械化、重労働で且つ繊細さを求められる職人の負担を軽減。また、多色染めにしたい、染め物にも関わらず写真を入れたいなど、多種多様な要望にも応えたいと。染め物に関してはどんなものでも1点から製作可能なので、他の染め屋さんがイヤがることを全部請けろというのを目標にしている。依頼先は個人から企業・団体まで多彩。某ゆるキャラのコスチュームや世界的スポーツ用品メーカーから半纏の製作を請け負ったらしい。日本の千年をデジタル化するナッセンジャー。水野染工場がある限り、本染めは永遠に継承されるだろうと思った。伝統は今日も大雪山の伏流水に磨かれる。

革新ポイント!

本物を知る職人が機械を活用することで、伝統文化を感じる仕上がりをより確かなものに。



メリット、デメリットがそれぞれにある機械染め。「型作り」から「仕立て」まで解説は青木課長から。



最初から終わりまで同じ力加減での移動が重要。しっかりと型に合わせて1点ずつ丁寧に染め上げる。



次代の手がかり

代表取締役 水野弘敏

私たちを取りまく生活環境は、時代の推移、産業構造の変化に伴い、大きく変貌しています。当社は明治40年の創業以来、「伝統は革新の連続である」という言葉通り100余年の経験と実績をもとに、暖簾に安住することなく、今後も皆様の多様なご要望にお応え出来ますようにさらに体制を整えて参ります。また、豊かな社会・地域創りに私達の事業を通じてお役に立てますよう、さらに努力を続けていく所存でございます。何卒ご理解を賜り、より一層のご愛顧、お引き立てのほど、お願い申し上げます。



株式会社水野染工場

代表者名 代表取締役 水野弘敏
設立 明治40年
資本金 2,500万円
従業員数 35名
事業内容 旗、半纏、法被、暖簾(のれん)、のぼり、手拭い、神社幟、紋幕他、染物製品の製造・販売
住所 旭川市大雪通3丁目488-26
電話 0166-29-0000 FAX 0166-26-7422
URL <http://www.hanten.jp/>

